## BEST AVAILABLE COPY

(3) JP 49-91767 U
Publication date: Aug. 8, 1974

< Description on the Relevance>
This is a document cited in the Office Action of the basic Japanese
Patent Application.

#### (Abstract)

A projection 7 slides in a helical groove 3 by rotating a driving axis rod 1, thereby a states of contacts which a switch have is changed due to a moving piece 4 is sliding.

**① 日本国特許**庁

❸日本分類
59 H 52

公開実用新案公報

7355 - 52

⊕実開昭49-91767

四公開 昭 49(1974) - 8. 8

害垄請求 未請求

## タスイッチの駆動装置

**和実 顧 昭47-137433** 

砂出 職 昭47(1972)11月29日

命考 秦 者 足立一之 .

調布市布田 2の46の2

砂出 额 人 三省電极株式会社

東京都島川区荏原5の11の13

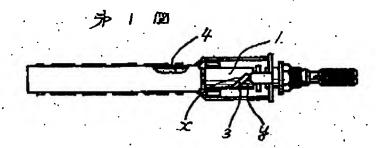
庁内整理者号

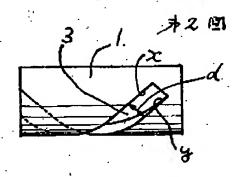
邳代 理 人 弁理士 福地実

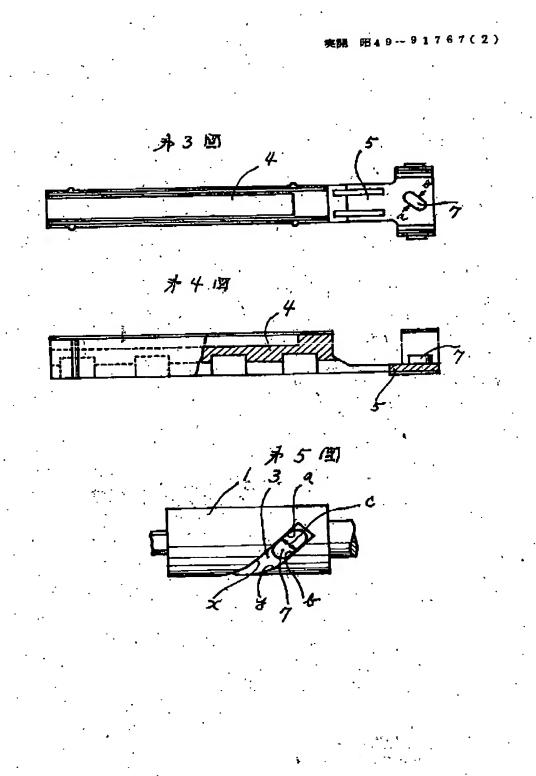
#### 砂栗用新薬登録請求の範囲

図面に示せる如く駆動軸杆の外周に転載方向に 斜に回動摺動器(以下器と移する)を穿散せしめ 践構は展開したる時度器状となる機になさしめた る関駆動軸杆を、スイッチの接点切換する動作片 に連結部を設け該連結部準の内底中央に連結用の 長円形なる突起(以下突起と称する)を設け前記 神に対向位置ならしめ、放突起の両側縁を平行録 ならしめ、放平行録の間隔を放準幅間隔と等しい 間隔とし該両側線が放滞の両側の内線に対接し個 動自在に接合せしめてなるスイッチの駅動差置。 関面の簡単な説明

第1回は本版スイッチの組立たる1部切欠上面 図。第2回は駆動軸杆に得を設けた図。第3回は 動作片に連結部を設けたる正面図。第4回は1部 切欠間側面図。第5回は駆動軸杆の帯と連結部に 設けた突起との関連をわかりやすく図示した図で ある。1は駆動軸杆。3は溝、4は動作片、5は 連結部、7は連結用の長円形突起。a,6は突起 の両側縁、cはa,6間の間隔。dは溝の偏。x, yは溝の内景である。







# 公開実用 昭和49-91767



実用新案登録願 (1)

(1,500円)

昭和47年1/月29日

特許庁長官

Æ

殿

1. 考案の名称 スイッテの駆動装置

2. 考 案 者 <sub>チュウァン フタ</sub>・ 住 所 東京都綱布市布田 2 - 4 6 ·

3. 実用新案登録出願人

**&** 

田 所 東京都品川区在原 5 丁目 1 1香 1 3号 田 名 三省電機株式会社

(国 物) 取締役社長 錦 木 増 金

4. 代 理 人 〒112

在 所 東京都文京区千石4-35-6 所 中理士(3349) 福 堆 突

(TEL 941-4718)

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1 通

(2) 図 面 1 通

(3) 願書副本 1 通

(4) 委任状 1 通 (5) 網接任書 1 通

11 13743 .

## 公開実用 昭和49-91767

#### 明 細 育

- 1. 考案の名称 スイッチの影動装置
- 2. 実用新菜含味請求の範囲

#### 3 考案の詳細な説明

本考案は慰動期代(1)(以下確所と称する)の外間に、報 服方向に新に回動増動等(3)を穿散せしめ、該構は展開した る時度概状となる様になさしめたる該軸件を、スイッチの 接点引奏する動作片(4)に連結部(5)を設け、該連結部(5)端の 内底中央に連結用の長円形象起(7)を設け、前記書(3)に対同 位置ならしめ該尖起(7)の両間較(a)(b)を平付録ならしめ、該 平行帳の間隔(c)を該導(3)印間幅(d)と等しい間隔とし、該四 (開級(a)(b)が該構(3)の両側の内線(x)(y)に対接し摺動自在に 依合せしめてなるスイッチにおいて、駆動軸杆(1)を回動せ しめることにより前記突起7が紋構(3)内を摺動し動作片(4) は増動しスイッチの接点切換(図示してない)をなるしめ ることを特徴とするスイッチの船動装置に係るものである。 上述の如く構成されているので駆動杆(1)を運動すると駆動 杆に設けた構造が回動し装構造内に嵌合されている突起(7) の両側線(a)(b)が、海(3)の縁(z)(y)にて押されて 導(3)内を回動 するから感動杆(1)が右回動の特は左へ、(図において)動 作片(4)は進行し、左回動の時は右へ動作片(4)は進行するの で、これによりスイッチの接点が切換えられるのである。 この劇動符1)の回動により構(3)にて突起(7)を押し摺動し前 進。後進ならしめる際に該欄円製突起(7)の両側線(e)(1)は平。 紅さ 行做ならしめてあり且つ構(3)市間隔(d)と突起(7)の半行機(a) (b)の間は(c)は同一たらしめてあり且つ平行最(a)(b)は平行で 直視なるがため単に円突起、杆突起等の点の接点とならず 本庭は直線の接線となっ。即ち直線部分回及び(b)が構の直 慮部分の破(x)(y)に対接しなから擂劫するを以てスイッチの 切壊方向にガタつかずスムースに運動なさしのもものであ **る。従って、接点切換はスムーズに行はれるもので本願の 雌とる特徴である。使ってガタがなく、くるいも生ぜず完** 

# 公開実用 昭和49-91767

全なる際点切典をなさしめる効果がある。

#### 4. 盛頃の簡単な説明

を 1 図は本順スイッチの組立たら1 部切欠上図。



オ 2 図は鉱動軸行に存を設けた図。

**氷る図は動作片に連続部を設けたる正面図。** 

<u>」がか欠」</u> オ4図は同機副図。

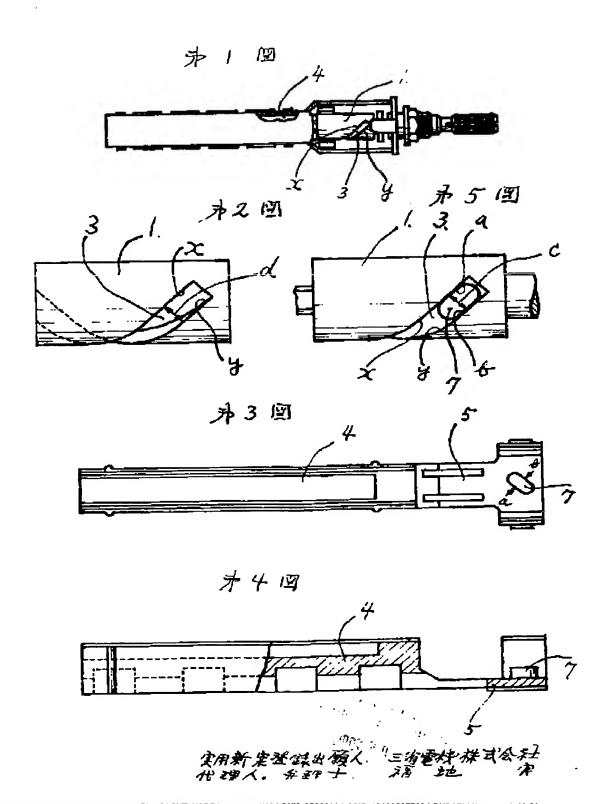
**私类** 

か5 図は監動軸杆の溝と連結部で設けた火起との選連をわかりやすく図示した凶である。

(1)は影動報任、(3)は得、(4)は動作片。(5)は連結部、(7)は連結用の長円形突起、(a)(b)は突起の時間縁、(c)は(a)(b)間の間は、(d)は待の中、(x)(r)は静の円縁である。

夷用新来於缺固顧人: 三省電機株式会社

代理人・沖縄士: 福 唯 現



PAGE 32/56 \* RCVD AT 7/5/2006 5:35:45 PM [Eastern Daylight Time] \* SVR:USPTO-EFXRF-1/12 \* DNIS:2738300 \* CSID:12129537733 \* DURATION (mm-ss):19-50

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
□ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER:

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.